

学校長挨拶

第五中学校のPTAの皆さん、第五中学校長の畠山正幸と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。五中3年目となります。

本年度は第五中学校に新たに159名の新入生が入学し、全校生徒469名、また、新たに14名の先生方をお迎えし令和6年度がスタートしました。本年度の第五中学校の学校教育目標と重点目標は以下のとおりです。



学校教育目標

人間性豊かで主体的に問題を解決する生徒

本年度の重点目標

- 「あたたかい五中」：五中人権宣言を大切にし、あいさつがあふれ、安心できる学校
- 「+1」の力の育成：自ら考え、判断し、行動する生徒の育成
- 学力向上：基礎基本の定着と、思考力・判断力・表現力の育成

あたたかい五中

五中には「五中人権宣言」があります。これは今から24年前、この五中で一人の男子生徒がいじめに遭いけがをする事件が起きました。その事件をきっかけに、当時の生徒会役員が立ち上がり、「五中生一人一人の安心と幸せを求め、誰もが仲間である学校を」という願いをもとに「五中人権宣言」が制定されました。五中生一人一人が安心して学校生活を送れるようにと先輩たちから受け継がれているものです。具体的な取り組みはいくつかありますが、全校で取り組むことは「あいさつ」です。学校中に気持ちいいあいさつが響き渡るように、自分からあいさつに取り組むことをめざします。先輩から受け継がれたあいさつが新しく入る1年生にも引き継がれ、明るいあいさつがあふれる五中をめざします。

また、学校生活や学習の基本である「学級」を大切にします。「どの子どもにとっても居心地がよい学級」「明るく、だれとでも関われる学級」「失敗や間違いが受け入れられる学級」をめざします。学級目標や学級のルール、係の役割を決めることはもちろんですが、学級集団に高めていくためには生徒同士、生徒と教師の「感情の交流」を大切にします。時にはみんなで大きな声で笑い合えるそんな学級をめざします。

+1

五中の学校教育目標は「人間性豊かで主体的に問題を解決する生徒の育成」です。今年1年間この目標に向かって学校生活を送っていきます。この中で特に大切にしてほしいことは、昨年度から引き続き学校目標の中にある「主体的」という言葉です。今の子どもたちが大人になるころは「子どもたちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く」「今後10～20年で、約47%の仕事が自動化される」などと言われます。また、社会が求める力として「自分の力で問題を解決していくことのできる能力」ということも言われています。まさに、五中の教育目標である「主体的」に行動できる力が求められています。この力は、特別な訓練をしないと付かない力ではありません。日常生活のいろいろな場面で発揮できる力です。たとえば掃除で、「時間が余ったからいつもやっていないところも手を伸ばして掃除をしよう」と考えて行動すること、また、係の仕事で「もっとこうした方が効率的にできる」と考えて行動することで身につく力です。そんなちょっと意識を変えることで、主体的に行動できる五中生を目指したいと考えています。

五中ではこの主体的な行動を「+1」という言葉で表現して全校で取り組んでいきます。特に生活の3重点の「あいさつ」「無言清掃」「時間を守る」については、人に左右されることなく、自分から一歩踏み出せる生徒をめざします。

学力向上

今の中学生が大人になるころの社会は激しい変化が予想され、一人一人が困難な状況に立ち向かう力をつけることが求められています。そのために国では、「教育は、個性を発揮し、主体的・創造的に生き、未来を切り拓くたくましい人間の育成を目指し、直面する課題を乗り越えて生涯にわたり学び続ける力をはぐくむことが必要である」と述べています。

このために子どもたちに求められる学力とは、知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や、自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であると言われます。

そこで学校では、生徒が意欲的に学ぶために1時間の授業を大切にします。具体的には1時間の授業で何がわかればいいのか、何を考えればいいのかを明確にした授業を行います。そのために「学習問題・学習課題」を明確にします。また、教師が一方的に教えるだけの授業ではなく、ペアやグループでの協働的な学び合いを取り入れます。

また、思考力、判断力、表現力に加えて探究する理科らを身につけるために総合的な学習の時間において、自ら課題を見つけて解決し、まとめ、発表する学習を大切にします。そのために、基本的に水曜日の6時間目にミニ鳳の時間を創設し、総合的な学習の時間をして活用します。

さて、保護者の皆さんに「中学生の親として」ということで話をさせていただきます。中学生になると心も体も急に成長します。各ご家庭ではどうでしょうか。小学校の頃は学校での出来事などよく話をしたけれど、中学生になると自分のことや学校のことを話さなくなる子も多いと思います。我が家でもそうでした。私には息子が2人いて、今はもう2人とも社会人や大学生になり家を出ています。中学生の頃を思い出すと、食事が終わるとすぐに自分の部屋に行き、会話の時間は小学校の頃より確実に減っていました。これは決して悪いことではなく、自立への道を頑張って歩いているということなのです。つまり、自分のまわりで起こっている問題を、何とか親に頼らずに自分で解決しようとしているのです。

そうはいつでも中学生はまだ自分探しの真っ最中ですが、自分で何でもできるように振舞いますが、常に今の自分はこれでよいのかという心の葛藤が多い時期です。大人でもなく、子どもでもなく、とても中途半端な時期であり、物事に感じやすく、多感で喜怒哀楽の情が激しい時期です。だからこそ悩み、時には親や社会に反発もします。

そんな中学生のもつ特徴を理解し、子どもを信じて温かな目で見守ってほしいと思います。「乳児は肌を離すな、幼児は手を離すな、少年は目を離すな、青年は心を離すな」と言われます。少年から青年になっていくのが中学生です。目を離す時が来ても、心だけは離さないようにしていきましょう。

心を離さないためのキーワードが「あなたが大事」です。先ほども言いましたように、中学生の子どもは聞いても答えなかったり、親に反抗的な態度をとったりしながら成長していきますが、その成長するためのエネルギーが「親から愛されている」という実感です。どんな子どもにも親から見て不足に感じることや、直してあげたいところ、弱点、欠点はあるでしょう。そこに多くの関心を向けることは子どもに劣等感を抱かせます。反抗期の子どもはもっと反抗するようになります。まず親が子どもの良い面を見つけ、そのことに喜びを抱きながら日々の生活を送ることが大切です。子どものありのままを受け止め、歓迎する。そうしてはじめて子どもは親から十分に愛されていると感じます。子どもの欠点を見い出して修正する教育はその後でよいのです。そして、言葉に出すことが一番いいのですが、面と向かっていきなり中学生に「あなたが大事」と言っても「どうしたの?」と言われそうです。言葉には出さなくても「あなたが大事」というメッセージを日々の生活の中で送ってあげましょう。きっと子どもたちも心のどこかで感じ、何か悩みがあっても乗り越える力につながります。さてみなさん「あなたが大事」メッセージ、どんなふうに

出しますか？ぜひ、工夫してみてください。

いろいろお話をしましたが、学校、家庭、地域が互いに連携して、それぞれの役割を果たしながら子どもたちの成長を応援したいと思います。保護者の皆様のご理解とお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。また、本校では年間通して職員研修を行い、体罰等の非違行為防止に努め、学校が子どもにとって安心・安全な場所であるようにしていきます。体罰については、言葉により子ども達の心を傷つけてしまうことも含め注意を払っていきます。今後お気づきのことがありましたら、どんな些細なことでもいつでも学校にご連絡ください。担任はもちろんですが、校長室、職員室、保健室など、いつでも、どこでも、誰にでも遠慮無くお知らせください。

一年間よろしくお願いいたします。

令和6年4月26日

上田市立第五中学校長 畠山正幸